

# 予算総額は12億9、327万円



## 健保を取り巻く状況

わが国の経済状況をみると、安倍政権が掲げた経済施策効果、いわゆる「アベノミクス効果」による株価上昇や円安進行が、国内経済への明るい兆しとして話題になりました。4月からは消費税率が引き上げられることもあり、一本調子とはいかないでしょうが、総じて景気回復への道筋は整いつつあります。

少子高齢化の進行により高齢者の医療費が増加を続けています。平成24年度の決算見込み（健保連調べ）では2、976億円の赤字額を計上しており、全体の7割を超える組合が赤字となっています。

政府は社会保障と税の一体改革に向け「社会保障制度改革国民会議」において議論を進め、報告書をまとめました。しかし、健保組合の財政難の主因である納付金・支援金負担の軽減については何の対策もとられていないというのが現状です。

この4月には診療報酬が引き上げられ、医療費の負担が増すこととなります。そのような状況に対して健康保険組合連合会では引き続き前期高齢者医療への公費投入をうたっています。

今年度は特定健診・特定保健指導のデータを活用して、病気の重症化予防対策などの健康をサポートする「データヘルス計画」の27年実施に向けて準備中です。病気を未然に防いで健康寿命をのばし、将来の高額な医療費の発生をおさえるものとして期待されます。

## 収支のあらまし

当健康保険組合の支出予算では医療にかかる保険給付費と国におさめる納付金でほぼ半分ずつを占めます。平成26年度は、納付金中の前期高齢者納付金が前年度と比較して1億5、016万円の大幅な増加となりました。

このため平成26年度の予算では、平成25年度の決算残金として見込まれる1億6、457万円の全額を繰り越し、また任意積立金から1億3、962万円を繰り入れて保険料収入の不足を補うこととしました。これにより一般保険料率（千分の94）、介護保険料率（千分の16）ともに、平成25年度から変わらずに維持した予算となっています。予算の概要は次のとおりです。

### 収入

今年度は被保険者2、247名を見込み、健保組合の主財源である健康保険料は9億5、662万円を見込んでいます。前年度繰越金1億6、457万円と繰入金1億3、962万円とを合わせて、収入全体で12億9、327万円を見込んでいます。

### 支出

皆さまの医療等にかかわる保険給付費は5億813万円で保険料収入の53・1%、納付金等は5億1、950万円で保険料収入の54・3%、給付費と納付金で107・4%に達します。事務費は3、770万円、

# 平成26年度予算概要



## 〈一般勘定〉

### ● 収入 (千円)

科目	本年度 予算額	前年度 予算額	増減
健康保険収入	956,935	959,210	-2,275
{ 保険料	{ 956,625	{ 958,890	{ -2,265
{ 国庫負担金収入・他	{ 310	{ 320	{ -10
調整保険料	13,425	13,562	-137
繰越金	164,578	118,629	45,949
繰入金	139,620	0	139,620
国庫補助金収入	297	131	166
財政調整事業交付金	9,000	5,087	3,913
雑収入	2,523	2,550	-27
介護勘定受入	6,897	3,000	3,897
合計	1,293,275	1,102,169	191,106

### ● 支出 (千円)

科目	本年度 予算額	前年度 予算額	増減
事務費	37,700	36,820	880
保険給付費	508,134	484,698	23,436
{ 法定給付費	{ 491,529	{ 467,708	{ 23,821
{ 付加給付費	{ 16,605	{ 16,990	{ -385
納付金	519,504	387,942	131,562
{ 前期高齢者納付金	{ 293,000	{ 142,831	{ 150,169
{ 後期高齢者支援金	{ 184,500	{ 201,857	{ -17,357
{ 退職者給付拠出金	{ 42,000	{ 43,250	{ -1,250
{ 老人保健拠出金	{ 4	{ 4	{ 0
保健事業費	60,149	62,965	-2,816
還付金	2	2	0
営繕費	3,000	2,000	1,000
財政調整事業拠出金	13,425	13,562	-137
連合会費	650	682	-32
雑支出	400	400	0
予備費	148,311	111,485	36,826
介護勘定繰入	2,000	1,613	387
合計	1,293,275	1,102,169	191,106

## 〈介護勘定〉

### ● 収入 (千円)

科目	本年度 予算額	前年度 予算額	増減
保険料	48,307	42,333	5,974
繰越金	2,144	0	2,144
雑収入	0	1	-1
一般勘定受入	2,000	1,613	387
合計	52,451	43,947	8,504

### ● 支出 (千円)

科目	本年度 予算額	前年度 予算額	増減
介護納付金	45,500	40,893	4,607
還付金	50	50	0
積立金	2	2	0
一般勘定繰入	6,897	3,000	3,897
雑支出	2	2	0
合計	52,451	43,947	8,504

### 前期高齢者納付金とは？

65歳から74歳までの人を前期高齢者といいます。前期高齢者納付金は、健保組合や国保などの前期高齢者の加入率によつて異なる財政負担を調整する仕組みとして、2008年4月の高齢者医療制度改革において導入されました。

当健保組合の場合、前期高齢者数は約40名ですが、その方々について実際にかかった医療費の約10倍の金額を納付金としておさめなければなりません。このような仕組みのために前期高齢者納付金は年度によって大きく変動する可能性があります。今年度は、前期高齢者医療費が入院・手術等の発生により前年の約2倍となったために、前期高齢者納付金も前年と比較して1億5,016万円増加しました。

疾病予防費等の保健事業費は6,014万円を計上しました。

### ● 収支

經常収支差引額は1億6,648万円の赤字であります。任意積立金からの繰入により予備費は1億4,831万円を計上しました。

加入員の皆さまは、各種健診受診（事業所定期健康診断、人間ドック・生活習慣病健診、メンタルヘルスチェック等）による病気の早期発見・早期治療を心がけてください。また、整形外科・接骨院・はり・きゅうの適正な受診、ジェネリック医薬品の積極的な利用、禁煙や食生活の見直し等の生活改善を進んで行っていたり、医療費の支出をできるだけおさえるための努力を一緒に行っていただくことをお願いします。